

まさよさんが伝えたかったこととは何でしょう。子どものころの楽しかったことや、母となつたときの不安や苦労、そして子どもが生まれたときの喜び、そのような永い人生を、習い覚えたわずか50文字で表現することの難しさを訴えたかったのではないのでしょうか。

文字が全てではないにしても、文字を理解し使いこなすことが、社会生活を送るうえで求められます。分かっているけれど文字を連ねる難しさに、まどろっこしさを感じたのでしょうか。

識字学級のめざすもの

- 1 社会生活や仕事に沿った学習
 - ① 名前や住所が書けることから始まりま
す。
 - ② 病院や役所の窓口で自ら書けることを
実践します。
 - ③ 自信がつき、外出や買い物を楽しくなり
ます。
 - 2 被差別体験や生い立ちを語り、自らを
綴っていく学習
 - ① 文字を知る権利を奪われた理由を知るこ
とで、差別の仕組みや不合理を知り、自ら
の生い立ちなど個人史を綴ります。
 - ② 世の中や差別の仕組みがわかると、自分
を非識字にした原因が理解できます。
 - ③ 情報の受信と発信ができる喜びが、日々
の生活の満足につながり、自然と自信が
湧いてきます。
- 識字学級での交流は大事な仲間づくりの
場となりました。先生からの指導を受けなが
ら課題をこなす喜びや頑張り、年代を超え
てより深い信頼関係をつくりました。

「なまえをかいだ」

きょうは はじめて ひとりで でんしゃに
のりました。

とちゅうで ラーメンをたべようとおもった
けど かんじがわからないので たべないで
かえってきました。

わたし、じいをべんきようしたら、
そのじ、にげんように っ て にかいてね
ぐつとにぎりしめていえにもつてかえるんで
すわ。

えきで らくがきをみました。びつくりして
はらたつて なみだがでました。

なにかんがえてるんやろね。だいいなかわい
いじい つこて、ひとにわるぐちかいてばち
あたりまつせ。

▶「なまえをかいだ」(吉田一子さん)大阪府
富田林市立人権文化センター識字教室より

字を覚えた嬉しさと頑張った自分をほめた
い気分、そしてらくがきに対する憤りが見事
に表現されています。「びつくりして、はら
たつて、なみだがでました」と、素直な気持
ちが出ています。

識字学級の今

現在の日本では全人口の約0.2%の
人が読み書きできないと言われていま
す。過去の非識字率は今よりも高かった
ため、昭和37年頃の福岡での識字学級の
開設をきっかけに識字学級は全国に広が
りました。また「国連識字の10年(※)」
の効果もありましたが、現在においても多く
の課題が残されています。

識字学級では、学習形態が多様化するな
かで工夫がなされ、人権について学び、生い
立ちや生活をふりかえることを重視した学

習が行われています。さらに内容は、被差
別地区の識字学習から、いろいろな人たちの
学びの場へと変わってきています。その中に
は不登校経験者や高校中退者も含まれます。
在日韓国朝鮮の人たちや中国の人、またそ
の他の国としてフィリピンやベトナムなどの
東南アジアやブラジルなどの南米の国々の人
たちも参加しています。これらのことから
学びの場が多文化共生の場にもなっているこ
とがうかがえます。

識字学級に参加する人たちは、識字学習
や仲間との交流を通して、貧しさや差別とど
う向き合うのかや、しっかりと差別と向き合
いその仕組みや原因を明らかにしようとする
姿勢を学んできました。日本の識字率の高さ
は、すべてではないにしろ同和教育の成果と
いえるのではないのでしょうか。

編集後記

今回ご紹介した手紙や作文から感じたこ
とは、字は生きるための力であり、かけが
えない宝物なのだということです。私た
ちが何気なく使っている字を、このように
いとおしく大切に思う気持ちに、胸を突か
れる思いがします。

現在の日本では、識字率がほぼ100%
に近いので、識字率の調査は行われていま
せん。過去、差別の厳しさや生活の貧しさ
などを理由に教育を十分に受けられない状
況がありました。しかし、昭和36年に始まっ
た教科書無償化運動などの取り組みによ
り、現在は誰でも等しく教育が受けられる
時代になっています。(詳しくは、「人権さ
んだ」平成26年2月15日号に掲載していま
す。)

識字学級には、10代から80代までの幅広
い年代層の人たちや、さまざまな国籍の人
が参加しています。世界を見ると、学校に
行けなかったり仕事に就けない人がたくさ
んいます。このような状況から、国際的な
識字に関しても、まだまだ課題が残ってい
るといえます。

※ユネスコ(国際連合教育科学文化機関)は、個人
とコミュニティ、そして社会にとつての識字の重要
性を強調することを目的とし、「国連識字の10年」
(2003年〜2012年)において、あらゆる領域
あらゆる教育段階における識字の推進を優先課題と
しました。

「北代色さんの手紙」

わたくしはうちがびんぼうであつたので
がつこうへいつておりません。

だからじをぜんぜんしりませんでした。
いましじがつきゆうでべんきようして
かなはだいたいおぼえました
いままでおいしゃへいつてもうけついで
なまえをかいでもらつていました。がためし
にじぶんでかいてためしてみました。

かんごふさんが北代さんとよんでくれたので
たいへんうれしかった。

夕やけを見てもあまりうつくしいと
思わなかつたけれどじをおぼえて
ほんとうにうつくしいと思うようにな
りました。みちをあるいておつても
かんばんにきをつけていてならつた
じを見つけるとたいへんうれしく思います
すうじおぼえたのでスーパーやもくよう
いちへゆくのもたのしみになりました。
またりよかんへ行つてもへやのばん
ごうをおぼえたのではじめかかなく
なりました。これからはがんばつて
もつともつとべんきようをしたいです。

四十八年二月二十八日 北代 色